

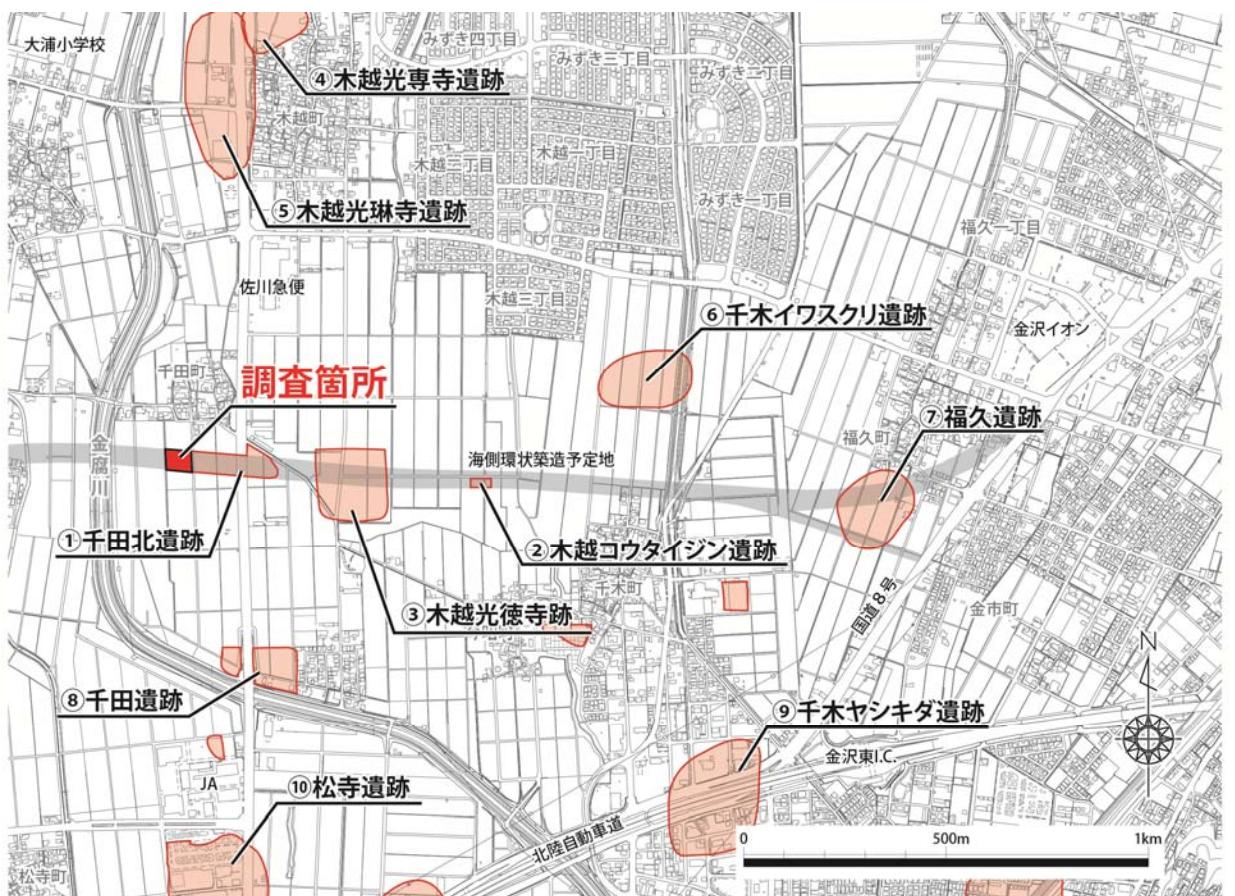
木越遺跡群現地説明会 資料

平成27年10月11日(日) 金沢市埋蔵文化財センター

1. 調査概要

調査原因 都市計画道路(金沢外環状道路)木越福増線築造工事
調査期間 平成27年5月20日~平成28年1月29日(予定)
調査地 金沢市千田町・木越町地内
調査面積 約7,850m²
(千田北遺跡3,500m²、木越光徳寺跡3,000m²、木越コウタイジン遺跡1,350m²)

2. 周辺の遺跡



番号	遺跡の名称・時代	主な遺構・遺物	番号	遺跡の名称・時代	主な遺構・遺物
①	千田北遺跡(弥生～古代)	掘立柱建物、溝 弥生土器、須恵器、土師器	⑥	千木イワスクリ遺跡(古墳～平安)	掘立柱建物、溝、土坑 土師器、須恵器、斎串
②	木越コウタイジン遺跡(古代～室町)	掘立柱建物、溝、柵列 須恵器、珠洲焼、灰釉陶器、壁材	⑦	福久遺跡(古墳～古代)	集落遺跡(年度別調査予定)
③	木越光徳寺跡(古代～室町)	掘立柱建物、区画溝、土坑、井戸 土師器、須恵器、珠洲焼、陶磁器	⑧	千田遺跡(弥生中期～古墳中期)	竪穴系建物、周溝墓 弥生土器、土師器、管玉
④	木越光専寺跡(室町)	(未調査)	⑨	千木ヤシキダ遺跡(飛鳥・古代)	掘立柱建物、埋納遺構 施釉陶磁器、墨書き土器、古銭
⑤	木越光琳寺遺跡(中世～近世)	掘立柱建物、溝、土坑 土師質土器、陶磁器、珠洲焼	⑩	松寺遺跡(弥生末～古墳前期)	円形竪穴建物、周溝墓、掘立柱建物 弥生土器、土師器

木越遺跡群と周辺の遺跡

3. 千田北遺跡の発掘調査について

(主な遺構)

弥生時代終末期：溝 溝状の落ち込みまたは自然流路

古墳時代：溝

平安時代：溝 土坑

時期不明のもの：掘立柱建物

(主な遺物)

弥生時代終末期：土器(甕、壺、高坏、器台、装飾器台) 管玉

古墳時代：土師器(甕、高坏)

平安時代：土師器(椀) 須恵器(杯、壺)

4. 木越コウタイジン遺跡の発掘調査について

(主な遺構)

平安時代：溝 大溝

鎌倉～室町時代：区画溝 土坑 掘立柱建物 自然流路(川跡)

(主な遺物)

平安時代：土師器(長胴甕、椀) 須恵器(杯) 灰釉陶器

鎌倉～室町時代：珠洲焼(甕、壺) 木製品(壁材、箸、漆器皿、木簡) 宝篋印塔

5. これまでにわかつてきしたこと

千田北遺跡：遺跡は、金腐川に近い海拔約50cmの低湿地に展開しており、地下水位が高いため、調査地内のあちこちで自噴水が見られます。そのため、地盤は不安定で液状化しやすい環境となっています。

調査地の北西側の低地部分では、複数の溝状落ち込み又は自然流路から弥生時代終末期の土器が比較的多く見つかっています。

調査地の東側は、やや微高地になっていて、地盤が堅く安定しています。集落に伴う遺構は、この微高地を中心に、時期が不明な1×3間以上の掘立柱建物1棟のほか、弥生時代の溝、古墳時代の溝・土坑、平安時代の溝が見つかっています。

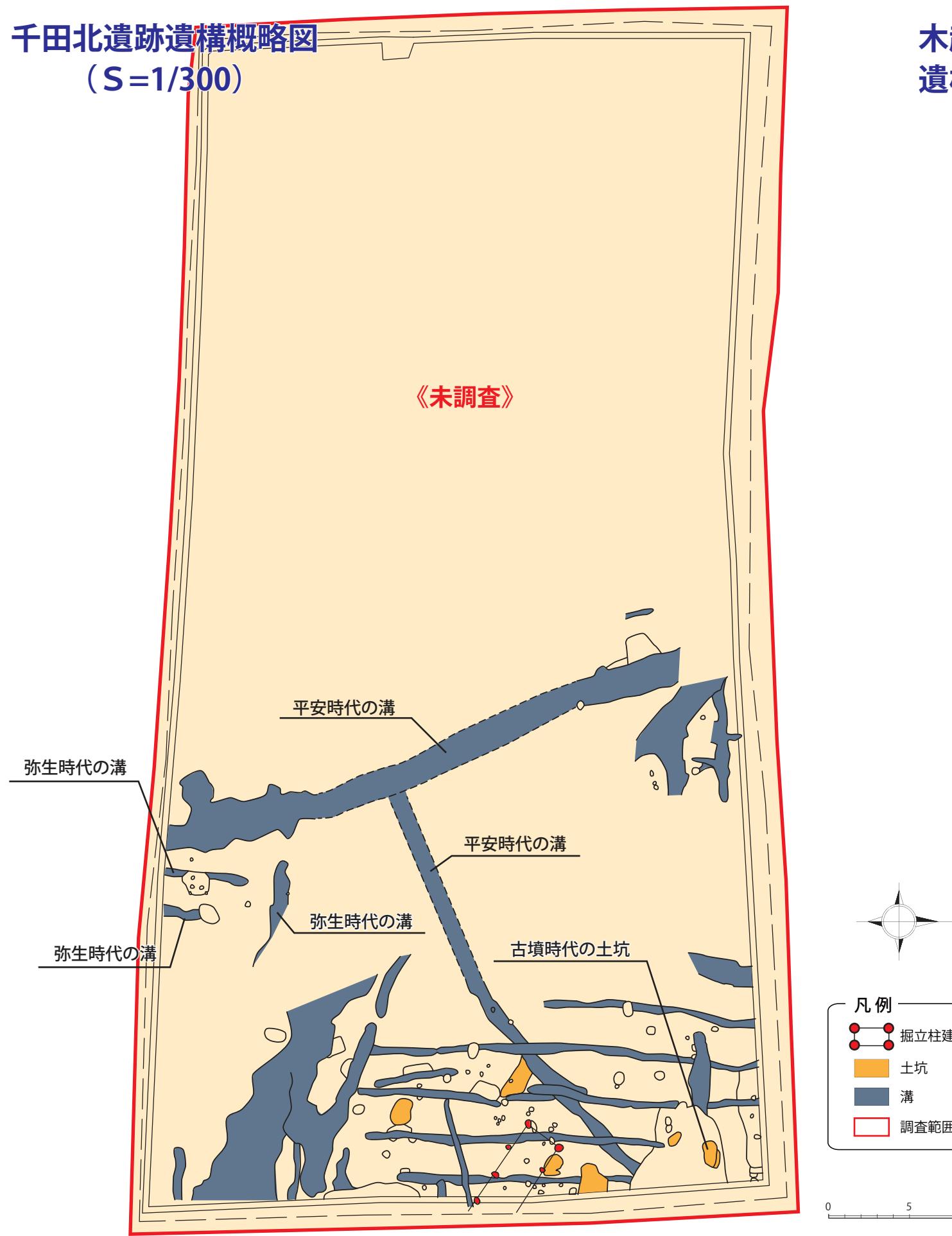
木越コウタイジン遺跡：木越光徳寺を拠点とする一向宗と佐久間盛政との戦いにおいて、一向宗の軍勢が退いた陣跡《後退陣》との伝承が残る地区を発掘調査しました。

千田北遺跡と同様に地盤が不安定なため、柱の沈下防止のために設置する「礎板」を備えた掘立柱建物が検出されています。そのほか、南北に直線で伸びる区画溝からは木簡が、川跡からは建物の壁材と考えられる縦140cm、横110cmの網代、墓石として使用される宝篋印塔の相輪が出土しました。大量の箸と漆器皿が埋められていた小穴もあります。湾曲する溝の底に小穴が並ぶ柵列と考えられる遺構もあり、陣跡を彷彿とさせますが、遺跡の性格付けについては今後の検討課題です。

木越光徳寺跡：昨年度の調査では鎌倉時代から室町時代にかけての建物や井戸、溝などがみつかりました。中でも幅4mを測るL字に屈曲する大溝は木越光徳寺の堀である可能性があります。

今年度の発掘調査はまだ始まったばかりですが、昨年度の隣接地での調査となるので、遺跡の性格がより解明されることが期待されています。

千田北遺跡遺構概略図
(S=1/300)



木越コウタイジン遺跡
遺構概略図 (S=1/300)

